

WEEKLY SIGNAL

平成30年7月6日(金) 1431号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	7/9 (月)	7/10 (火)	7/11 (水)	7/12 (木)	7/13 (金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 1,200	ト ン	ト ン	△ 1,000	△ 1,000
財政他	+ 1,500	△ 1,000	△ 28,000	△ 18,000	△ 5,000
資金需給	+ 2,700	△ 1,000	△ 28,000	△ 19,000	△ 6,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)	国庫短期証券発行・償還(6M)	国債発行(5Y)	源泉税揚げ	国債発行(20Y)
オペ期日	共通担保(本店) △ 1,400 国債補完供給 + 1,200 CP等買入 △ 200				
オペスタート	共通担保(全店) + 1,300 国債買入 + 8,600	CP等買入 + 2,000			
(日本)	日銀黒田総裁、定例支店長会議であいさつ 日銀地域経済報告(7月) 国際収支(5月) 景気ウォッチャー調査(6月)	マネーストック(6月)	機械受注(5月) 企業物価指数(6月) 第3次産業活動指数(5月)		
(海外)	米 消費者信用残高	米 求人件数(5月)	NATO首脳会議 (ブリュッセル、12日まで) 米 NY連銀総裁、講演 英 カーニー-英中銀総裁、講演(ボストン)	米 ミネアポリス連銀総裁、講演 米 フェデラルリアン連銀総裁、講演 米 CPI(6月) 米 財政収支(6月) ユーロ圏 鉱工業生産(5月)	米 FRB半期に一度の金融政策報告 米 アトランタ連銀総裁、講演 米 輸入物価指数(6月) 米 シガン大学消費者マインド指数(7月、速報値)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.060 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.050 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.050
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初391兆8,900億円から始まったが、4日の税揚げを受けて387兆1,400億円まで減少した。その後は、国債買入オペ等を主に増加し、387兆1,600億円を越えた。
無担保コールON物は、先週に引き続き△0.080%台での出合が中心の軟調な地合が、週を通して続いた。同加重平均金利は、△0.074%~△0.069%で推移した。ターム物では、1W物において主に△0.070%~△0.050%の水準で出合が見られた。
2日に日銀より発表された6月の短観によると、大企業・製造業の業況判断指数(DI)はプラス21と、前回3月調査のプラス24から2期連続で悪化した来週の主な予定は、日銀黒田総裁の定例支店長会議でのあいさつ(9日)や、マネーストック(6月)の公表(10日)などがあり、海外ではNATO首脳会議(11,12日)、米CPI(6月)の公表(12日)、米FRBによる半期に一度の金融政策報告(13日)などがある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.150 ~ △0.125
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約1兆200億円で、週間償還総額の約5,700億円から増加した。商社・鉄鋼業の発行再開やその他金融の大型案件が連日オファーされ、残高復活が急ピッチで行われた。週末の発行市場残高は、17兆4,000億円強となった。発行レートは、概ねマイナス~0%近辺の出合であった。5日に、CP等買入オペが2,000億円を実施され、按分レート△0.003%、平均レート0.000%といずれも前回に比べ上昇した。
来週の償還総額は、4,500億円程度となっている。5・10日発行が見込まれるため、横這いから発行増が予想される。発行レートは、ディーラーや投資家の運用ニーズが強く、変わらずマイナス~0%近辺の出合であろう。12日に、CP等買入オペが2,000億円程度オファーされる予定である。

<TDB>

6日に行われた3M768回債は最高落札レート△0.1328%(前回債△0.1263%)、平均落札レート△0.1380%(同△0.1319%)と前回債からマイナス幅を拡大。セカンダリー市場では、同3Mは入札水準より強い△0.145%の出合が見られ、堅調であった。
来週は9日に6M、13日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

銘柄先決めGCは週初△0.105%~△0.10%から始まり、週央にかけても同水準で推移。以降レートは上昇基調となり、短国3Mの発行日となる9日受渡しでは△0.08%台の取引も見られた。SC取引では10年350回債で入札日曜日△0.20%前半~半ばの出合い。入札日以降は△0.10%前半~半ばで取引された。5年135回債は4日の国債買入オペ後bidが増加。週後半は△0.30%前半~△0.40%近辺の出合いが見られた。その他2年388・389回債、5年134回債、10年340・341・346・347・348・349回債、20年163・164回債、30年57・58回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。